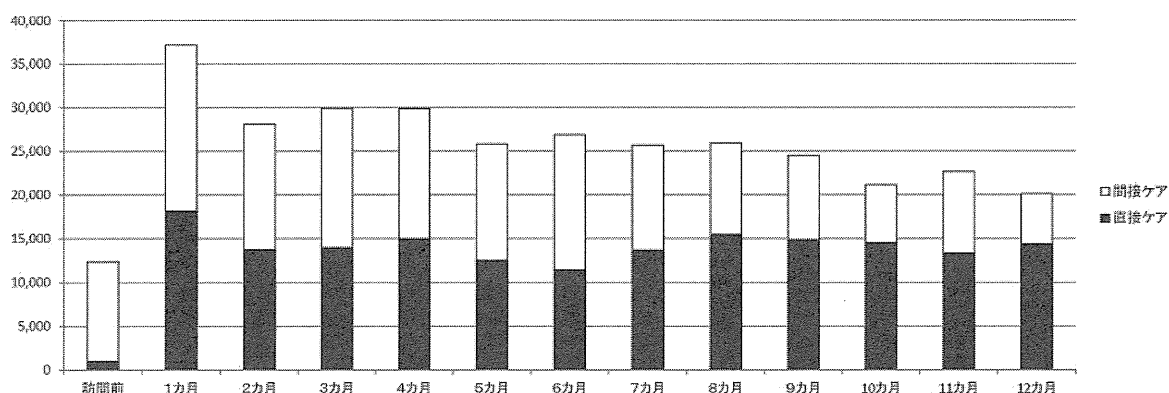


算出した結果、全体では、1カ月目の37,176円（直接ケア：18,197円、間接ケア18,979円）が最も多く、2カ月目以降は2万円台で推移していた。

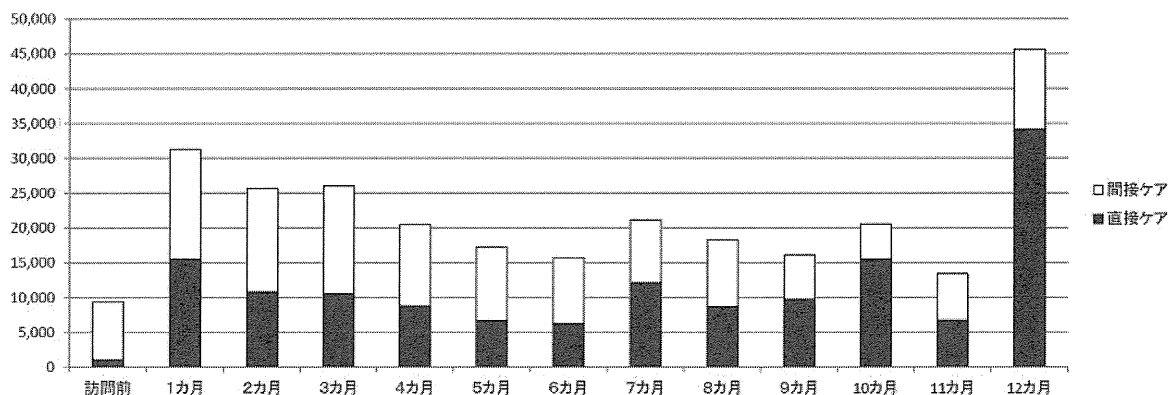
入院・施設入所の群では、1カ月目の31,274円（直接ケア：15,524円、間接ケア15,750円）が最も多く、2カ月目以降は1～2万円台で推移していた。

入院等以外の群では、1カ月目の40,155円（直接ケア：20,025円、間接ケア20,129円）が最も多く、2カ月目以降は2～3万円台で推移していた。

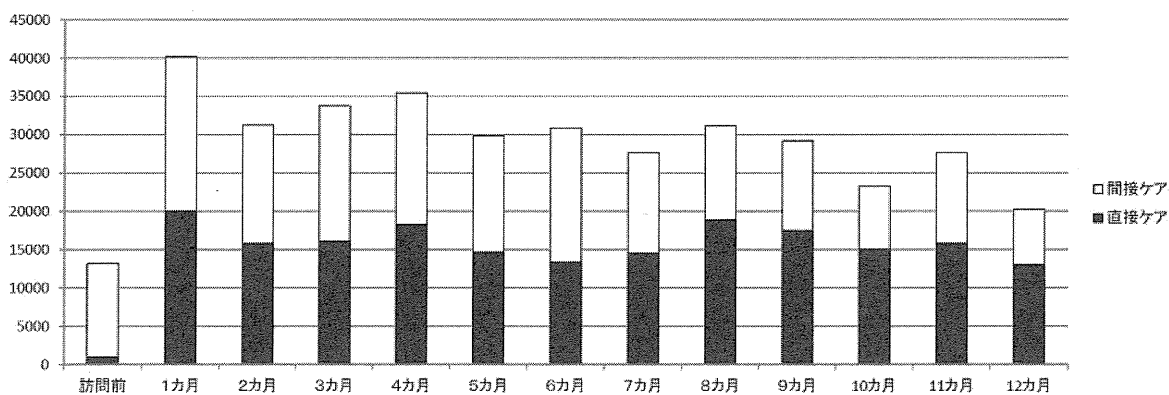
図表Ⅱ-47 支援開始後12カ月以内に提供されたコストの推移【全体】（単位：円）



図表Ⅱ-48 支援開始後12カ月以内に提供されたコストの推移【入院等】（単位：円）



図表Ⅱ-49 支援開始後12カ月以内に提供されたコストの推移【入院等以外】（単位：円）



Ⅲ. 他のサービスに つながり支援が終了した ケースの分析

Ⅲ. 他のサービスにつながり支援が終了したケースの分析

1. 6カ月以内に支援が終了した人と6カ月をこえた支援ののち終了した人の比較

現在の状況が、「治療につながっており、障害者自立支援法・介護保険法によるサービス等を活用するなどして、地域生活の継続が可能な状態」である人のうち、6カ月以内に支援が終了した7人（6カ月以内群）と、6カ月をこえた支援ののち終了した9人（6カ月以上群）について、対象者の概要および症状等の変化を比較した。

1) 対象者の概要

どちらの群も、全体に比べると「受療中断者」の割合が高かった。特に、6カ月以内群では、受療中断者が6人（85.7%）と多く、「未受診者」は1人（14.3%）であった。6カ月以上群では、受療中断者は5人（55.6%）で、「長期入院等の後退院した者や入院を繰り返す者」の割合が33.3%と全体に比べて高い特徴がみられた。

図表Ⅲ-1 支援期間別にみた支援対象者の類型別人数

	全体		6カ月以内		6カ月以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
受療中断者	159人	42.2%	6人	85.7%	5人	55.6%
未受診者	38人	10.1%	1人	14.3%	0人	0%
ひきこもり状態の者	26人	6.9%	0人	0%	0人	0%
長期入院等の後退院した者や入院を繰り返す者	44人	11.7%	0人	0%	3人	33.3%
不明	110人	29.2%	0人	0%	1人	11.1%
合計	377人	100.0%	7人	100.0%	9人	100.0%

診断別人数をみると、両群ともに全体に比べて「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の割合が高く、6カ月以内群では71.4%、6カ月以上群では77.8%であった。6カ月以内群では、気分（感情）障害が28.6%であった。また、両群とも診断名不明の者はいなかった。

図表Ⅲ-2 支援期間別にみた支援対象者の診断名別人数

	全体		6カ月以内		6カ月以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
統合失調症、統合失調症型障害 及び妄想性障害	199人	52.8%	5人	71.4%	7人	77.8%
症状性を含む器質性精神障害	7人	1.9%	0人	0%	0人	0%
気分（感情）障害	20人	5.3%	2人	28.6%	1人	11.1%
その他	43人	11.4%	0人	0%	1人	11.1%
不明	108人	28.6%	0人	0%	0人	0%
合計	377人	100.0%	7人	100.0%	9人	100.0%

2) 支援開始時と支援終了時における症状の程度の変化

GAF 得点は、6 カ月以内群で平均 10.5 点の改善、6 カ月以上群で 19.0 点の改善が見られ、全体に比べて大きな改善が見られた。SBS 得点も、6 カ月以内群で 7.7 点、6 カ月以上群で 11.4 点と大きな改善が見られた。

図表Ⅲ-3 支援期間別にみた、支援開始時と支援終了時の GAF・SBS の変化

	人数	支援開始時		支援終了時		平均値の変化
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
GAF 得点の変化						
全体	116 人	37.3 点	13.2 点	43.9 点	15.7 点	6.7 点
6 カ月未満	7 人	37.9 点	12.6 点	48.4 点	16.3 点	10.5 点
6 カ月以上	7 人	39.4 点	9.7 点	58.4 点	13.8 点	19.0 点
SBS 得点の変化						
全体	116 人	25.9 点	11.1 点	21.7 点	12.5 点	-4.2 点
6 カ月未満	7 人	27.4 点	14.0 点	19.7 点	17.7 点	-7.7 点
6 カ月以上	7 人	23.1 点	6.5 点	11.7 点	8.2 点	-11.4 点

3) 相談者満足度・本人満足度

6 カ月以内群の相談者満足度は平均 28.8 点、本人満足度は平均 27.3 点であり、全体の平均値より若干高い値であった。また、6 カ月以上群の相談者満足度は平均 28.7 点、本人満足度は平均 27.5 点であり、全体の平均値より若干高い値であった。

図表Ⅲ-4 支援期間別にみた相談者満足度・本人満足度

	人数	平均値	標準偏差
相談者満足度 (全体)	65 人	27.9 点	3.3 点
相談者満足度 (6 カ月未満)	6 人	28.8 点	2.3 点
相談者満足度 (6 カ月以上)	3 人	28.7 点	3.5 点
本人満足度 (全体)	19 人	26.1 点	4.5 点
本人満足度 (6 カ月未満)	3 人	27.3 点	4.7 点
本人満足度 (6 カ月以上)	4 人	27.5 点	4.8 点

※相談者満足度、本人満足度について回答のあった人を集計対象とした。

4) 平均支援期間

平均支援期間は、全体では225.0日であったが、6カ月未満群では113.4日、6カ月以上群では292.9日であった。

図表Ⅲ-5 平均支援期間

	人 数	平均値	標準偏差
全体	116 人	225.0 日	118.3 日
6 カ月未満	7 人	113.4 日	53.9 日
6 カ月以上	7 人	292.9 日	117.4 日

2. 6 カ月以内に支援が終了したケースの分析

1) 6 カ月以内に支援が終了した 7 ケースの概要

本年度、本事業の支援対象者のうち、6 カ月以内に支援が終了し他のサービスにつながったケースは 7 ケースであった。図表Ⅲ-6 にその概要を示す。

事例の性別は、男性 4 例、女性 3 例で、年齢は 30 代 2 名、40 代 4 名、50 代 1 名、主診断名は F2 統合失調症 5 名、F3 気分障害 2 名であった。対象の類型は受療中断者が 6 名と多く、未受診者は 1 名であった。支援開始時の精神機能の全体評価（GAF 得点）は、20 点台が 2 名、30 点台が 1 名、40 点台が 3 名、60 点台が 1 名であった。社会行動評価（SBS 得点）は、50 点台が 1 名、30 点台が 1 名、20 点台が 2 名、10 点台が 3 名であった。

図表Ⅲ-6 6 カ月以内に支援が終了し他のサービスにつながった 7 ケースの概要

ケース ID	性別	年齢	診断 (*1)	類型	ケースタイトル	開始時 GAF 得点	開始時 SBS 得点
C1	男性	30 代	F2	受療中断	支援対象者の困りごとを一緒に解決することができ、適切なサービスにつながったケース	40	29
C2	女性	40 代	F2	受療中断	通院・服薬が中断し精神状態が不安定となった対象者のニーズに丁寧にかかわり、受診再開・就労につながり、支援終了となったケース	41	17
C3	男性	50 代	F2	受療中断	安全な自宅での対応により意思確認ができ、必要な社会資源につながったケース	60	14
C4	男性	30 代	F3	受療中断	身体障害がある利用者の精神的苦痛を支援し、ピアサポーターとの交流が本人のリカバリーにつながり支援を終了したケース	42	16
C5	女性	40 代	F2	受療中断	訪問方法の工夫と家族支援により攻撃性が軽減し、家族が医療につながれたケース	35	34
C6	男性	40 代	F3	未受診	本人の希望した就労目標が達成され、利用していた社会資源に必要な支援をつなげられたケース	25	28
C7	女性	40 代	F2	受療中断	他の社会資源とのつながりや本人の状態を確認しつつ、本人の希望で支援を終了したケース	22	54

(*1) 診断名 F2：統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、F3：気分（感情）障害

2) 6 カ月以内に支援が終了した 7 ケースの詳細

6 カ月以内に支援が終了した 7 ケースについて、支援の月数からみた内容別ケア量、職種別関与回数、支援の詳細、コスト分析を示した。

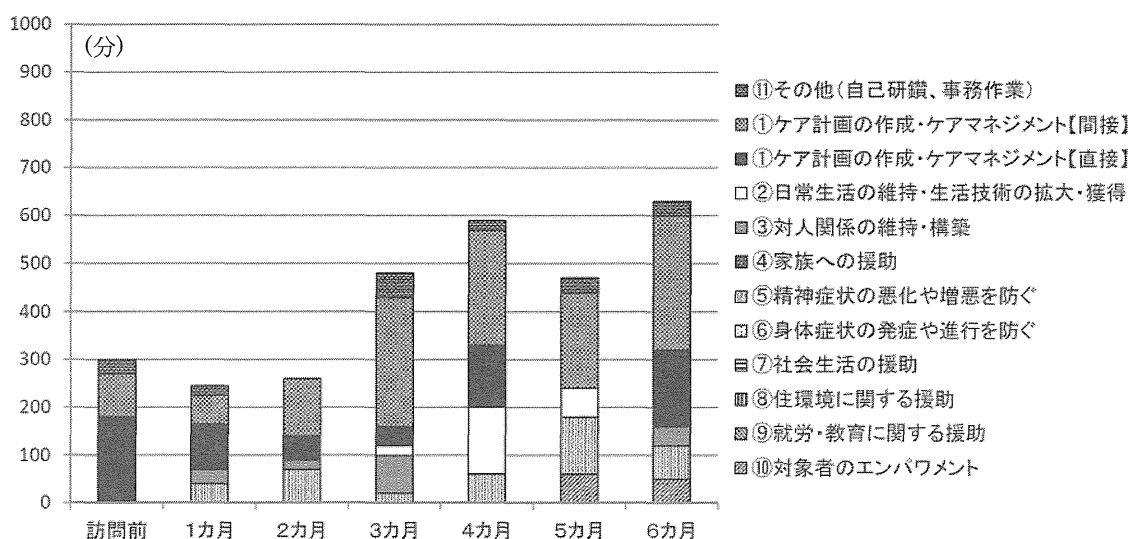
(1) ケース ID: C1

ID: C1 支援対象者の困りごとを一緒に解決することができ、適切なサービスにつながったケース		
	支援開始時	支援終了時
基本情報		
性別・年齢	男性・30代	
世帯状況・居住形態	独居・賃貸（集合住宅）	
経済状況・就労状況	生活保護・無職	
支援期間	176日	
支援終了事由	治療につながっており、障害者自立支援法・介護保険法によるサービス等を活用するなどして、地域生活の継続が可能な状態	
病態像		
類型	受療中断者	
主診断名	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	
副診断名・身体合併症	なし	
服薬	なし	あり（自己管理）
GAF	40	51
SBS	29	17
過去 18 カ月の入院期間	なし	なし
ケアの概要		
総ケア量	2,975 分	
直接／間接ケア量	1,535 分／1,440 分	
訪問／電話回数	16 回／2 回	
会議回数	7 回	
病歴	X-10 年ごろ精神疾患発症、発症後の受診経過は不明。X-6 年 8 月の受診以降、治療中断。X-2 年 4 月、生活保護担当ワーカーの検診命令にて一度受診したが、その時点で処方はなく、以後受診中断していた。	
支援導入の経緯	X-1 年 2 月、昼夜を問わず大声で独語を発し、アパート住民と数回トラブルあり。アパート大家から保健所を通じてアウトリーチチームに相談が入り、状況を確認。昼夜問わず独語を発する（廊下にも聞こえる程）ため、アパート住民が注意すると、怒鳴ったり暴力を振るった。後日、生活支援課担当が本人に連絡を取るが、アパートでの面会は拒否。病院での面談には応じ、アパート住人からの嫌がらせや妄想を話した。市生活支援課、アウトリーチスタッフ、主治医と相談し、定期的訪問、家主・住人らの調整、住環境への支援を目的に、本事業の支援対象者とした。	

① 支援開始からの月数と内容別ケア量

本事例では、初回訪問前に「ケア計画の作成・ケアマネジメント」の支援が実施され、初回訪問から6カ月間にわたって支援が継続された。直接ケア、間接ケア共に支援中期以降にケア量が増加していた。

直接ケアの内容をみると、支援開始時から継続して「精神症状の悪化や増悪を防ぐ」ケアが実施され、支援3カ月からは「日常生活の維持・生活技術の拡大・獲得」の支援が実施されていた。また、支援後半には「対象者のエンパワメント」が実施され支援が終了していた。



図表Ⅲ-7 ケース C1：支援開始からの月数と内容別ケア量

② 支援開始からの月数と職種別関与回数（訪問支援・電話相談）

本事例においては、看護師、精神保健福祉士及び作業療法士が中心的に関わり、支援中期にはピアサポーターが同行訪問していた。訪問支援は、月に3~4回であり、基本的には2名で実施されていた。

図表Ⅲ-8 ケース C1：訪問支援（回）

職種	月数					
	1	2	3	4	5	6
精神科医						
保健師						
看護師	1	1	2	2	2	3
精神保健福祉士	2		1	3	3	2
作業療法士	3	1	1		1	
臨床心理士						
薬剤師						
栄養士						
相談支援専門員						
事務職員						
ピアサポーター				2		
その他						

図表Ⅲ-9 ケース C1：電話相談（回）

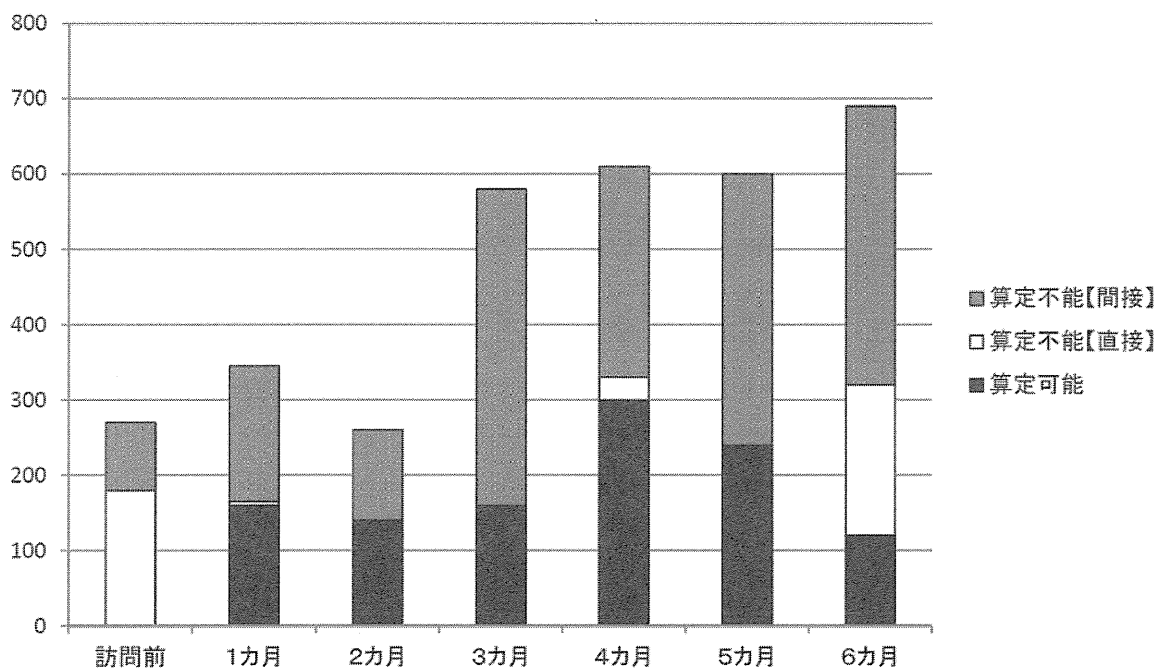
職種	月数					
	1	2	3	4	5	6
精神科医				1		
保健師						
看護師						
精神保健福祉士				2		
作業療法士						
臨床心理士						
薬剤師						
栄養士						
相談支援専門員						
事務職員						
ピアサポーター						
その他						

③ 支援の詳細

支援経過	
支援開始1カ月	室内では訪問を拒否するため、室外で面談を実施。独語のため、アパート住人のトラブルは、「勝手に周囲が騒ぎ、警察や病院職員を呼ぶ」と捉えている。2週間に1回自宅を訪問し、必要に応じてアパートの大家や住人と面談し、関係調整に取り組んだ。
支援開始2カ月	
支援開始3カ月	主治医を交えてカンファレンスを実施し、方向性を検討した。①病的体験はあるが行動化はなく、本人なりの生活を送っているため、緊急的危機介入の必要はない。②アパート住人のトラブルが時折あるため、地域に相談窓口を確保し、地域関係機関と相談して見守り支援を継続する。
支援開始4カ月	訪問を継続する中で、本人は経済的困難を抱えていることがわかり、生活保護費の障害者加算についての情報提供を行った。このことより障害者手帳の申請を希望し、自ら外来受診をされるに至った。本人の困りごとを確認することができ、タイムリーな情報提供が行えたことが受診再開の動機につながったと考えた。以降、外来受診の定着にむけ支援を継続して実施した。
支援開始5カ月	
支援開始6カ月	3か月間継続受診し、訪問看護ステーションと契約できたため、アウトリーチチームによる支援を終了した。この頃には、自室内での面談が可能となった。

④ 現在の診療報酬制度による算定可否、およびケア時間の推移

この支援対象者に提供されたケア時間を、現在の診療報酬制度によって医療サービスが提供できたと仮定した場合、算定可能なケア時間、算定不能なケアに時間（分）にわけ示す。算定不能のものについては、支援対象者同席で行う「直接ケア」と、支援対象者の同席を得ないで行う「間接ケア」に分け示す。



図表Ⅲ-10 C1：現在の診療報酬制度による算定可否、およびケア時間の推移

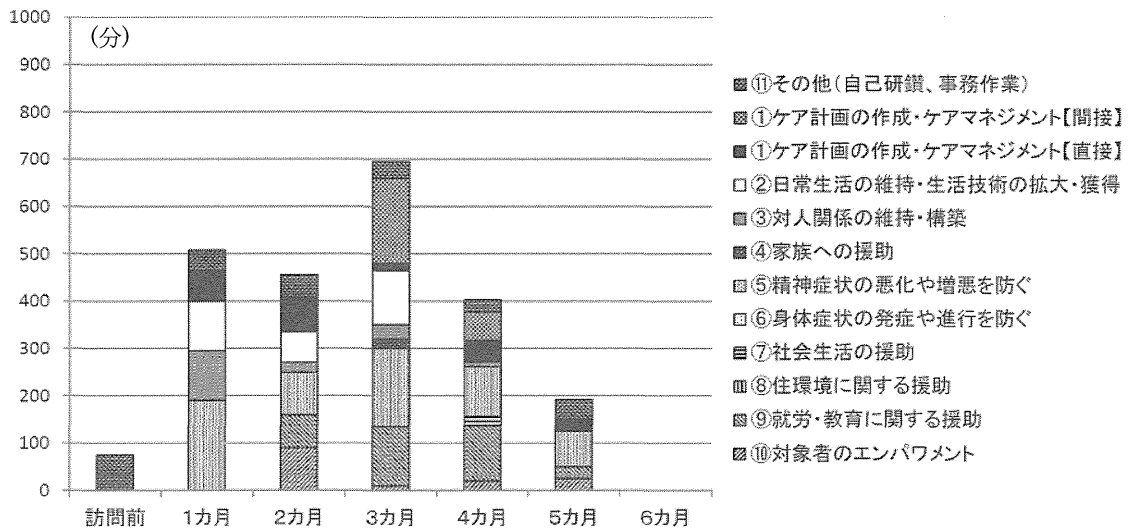
(2) ケース ID: C2

ID: C2 通院・服薬が中断し精神状態が不安定となった対象者のニーズに丁寧にかかわり、受診再開・就労につながり、支援終了となったケース		
	支援開始時	支援終了時
基本情報		
性別・年齢	女性・40代	
世代状況・居住形態	息子・娘・その他、自宅	
経済状況・就労状況	家族の収入・専業主婦	家族の収入・パート
支援期間	125日	
支援終了事由	治療につながっており、障害者自立支援法・介護保険法によるサービス等を活用するなどして、地域生活の継続が可能な状態	
病態像		
類型	受療中断者	
主診断名	F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	
副診断名・身体合併症	無	
服薬	していない	している（自己管理）
GAF	41	61
SBS	17	12
過去18カ月の入院期間	X-2年3/3~6/24 措置入院	
ケアの概要		
総ケア量	2,339.7分	
直接ケア量／間接ケア量	1,822分／517.7分	
訪問／電話回数	11回／5回	
会議回数	25回（評価検討委員会4回、ケースカンファレンス21回）	
病歴	X-1年7月頃より「誰かが見ている」と話す。元夫に「あなたは病院の医師からお金を貰っている」等話し、夫や息子と言い争いが続いた。X年3月、ATMで刃物を持っていたために警察に通報され、「死んでやる」と、自らの喉元に刃物を突きつけた。警察が保護し、精神科に措置入院となった。X-2年6月に退院するが、8月に受診中断した。	
支援導入経緯	X-2年9月カンファレンス時に担当看護師（アウトリーチ兼務）から、本人が外来中断中、X-2年10月、本人および元夫から服薬も中断中であるとの情報があった。元夫の了解を受けてチームで検討後、訪問した。 X-2年11月、不眠・不安はあるが病識はなく、受診の必要性も認識していない状態であった。また、海外出身で日本語がうまく話せず、時間をかけてすすめていく必要があった為支援を開始となった。	

① 支援開始からの月数と内容別ケア量

本事例では、訪問前に「その他（自己研鑽、事務作業）」が行なわれ、初回訪問から5カ月間にわたって支援が継続された。直接/間接ケア共に支援中期にケア量が増加し、支援終了に向けて徐々にケア量は減少していた。

直接ケアの内容をみると、支援開始初期から「日常生活の維持・生活技術の拡大・獲得」、「対人関係の維持・構築」、「精神症状の悪化や増悪を防ぐ」ケアが多く実施されていた。また、支援2カ月目からは「就労・教育に関する援助」「対象者のエンパワメント」の支援が開始されていた。



図表Ⅲ-11 ケース C2：支援開始からの月数と内容別ケア量

② 支援開始からの月数と職種別関与回数（訪問支援・電話相談）

本事例においては、看護師、精神保健福祉士が中心的にかかわっていた。

訪問支援は、月に2~3回であり、支援中期までは2名、支援後半には1名で実施されていた。

図表Ⅲ-12 ケース C2：訪問支援（回）

職種	月数					
	1	2	3	4	5	6
精神科医						
保健師						
看護師	3	2	2			
精神保健福祉士	1	2	3	2	1	
作業療法士						
薬剤師						
栄養士						
相談支援専門員						
事務職員						
ピアサポーター						
その他						

図表Ⅲ-13 ケース C2：電話相談（なし）

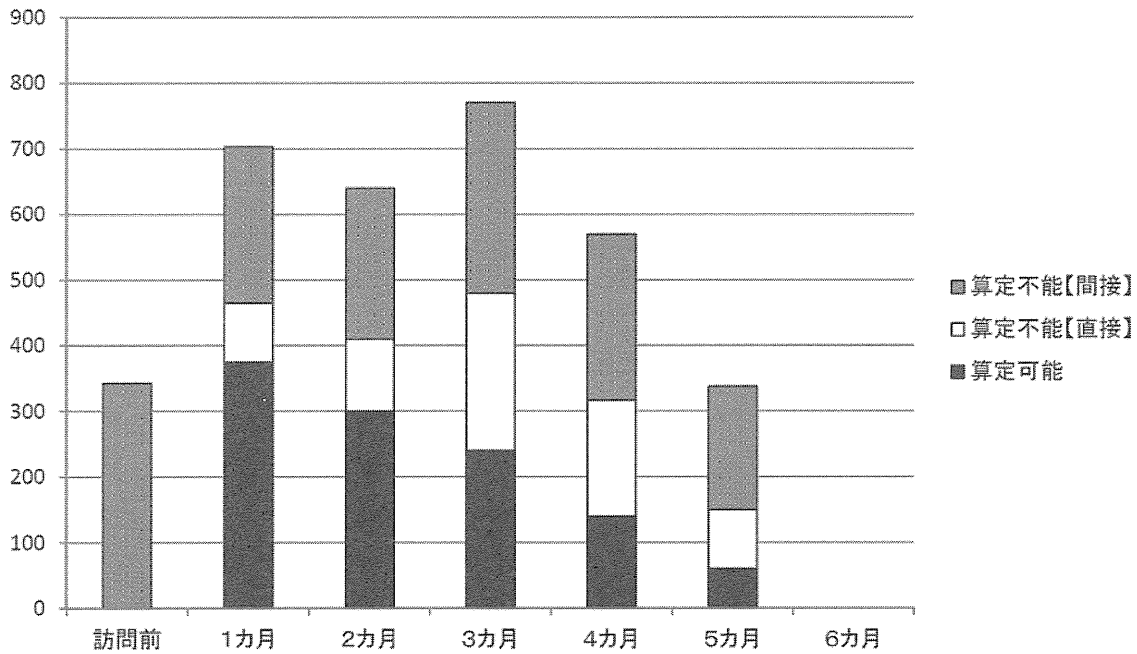
職種	月数					
	1	2	3	4	5	6
精神科医						
保健師						
看護師						
精神保健福祉士						
作業療法士						
薬剤師						
栄養士						
相談支援専門員						
事務職員						
ピアサポーター						
その他						

③ 支援の詳細

支援経過	
支援開始1カ月	X-2年11月、訪問すると、薬の副作用に不安を持っていることと金銭的な理由で受診できなかったとのことであった。初回訪問から2週間後、不眠、食欲不振で危機的状況となった。自傷の恐れもあり、チームの医師の指示を仰ぎ、本人へ受診を促したところ、受診の約束を取ることができた。予定通り受診し、内服薬が処方された。NSが訪問して服薬について説明し、以降週1回の訪問支援・外来通院（2週に1回）となった。
支援開始2カ月	来院し、外来作業療法の見学を行い、外来作業療法に参加してウォーキングを行なった。集団には乗れないが、顔見知りとは話はしている。作業療法士も訪問し、就労にむけてアドバイスを行う。
支援開始3カ月	当院の栄養科で欠員が出たため、本人が勤務できないか栄養科科长もカンファレンスに参加してもらい状況を共有した。就労に向けて、面接のロールプレイや履歴書の記載をPSWと行った。栄養科の面接を受け採用が決定した。訪問時に近所の人と雑談している時に精神科の薬は強いという話を聞いたことで3~4日間薬を抜いてしまい、本人の表情に硬さがあった。再度服薬の重要性を説明し、フォローしていった。
支援開始4カ月	栄養科勤務を開始した。本人も続けていけそうと言っているものの、眠れない時もあり、不眠時の頓服使用回数が増えた。あせりもあり、表情には硬さがみられた。
支援開始5カ月	定期的な訪問支援（週1回）と受診（2週1回）を継続しており、就労も安定してきたこともあり、チームでの支援は終了とする。今後は訪問看護でフォローしていく事とし支援が終了した。

④ 現在の診療報酬制度による算定可否、およびケア時間の推移

この支援対象者に提供されたケア時間を、現在の診療報酬制度によって医療サービスが提供できたと仮定した場合、算定可能なケア時間、算定不能なケアに時間（分）にわけ示す。算定不能のものについては、支援対象者同席で行う「直接ケア」と、支援対象者の同席を得ないで行う「間接ケア」に分け示す。



図表Ⅲ-14 C2：現在の診療報酬制度による算定可否、およびケア時間の推移

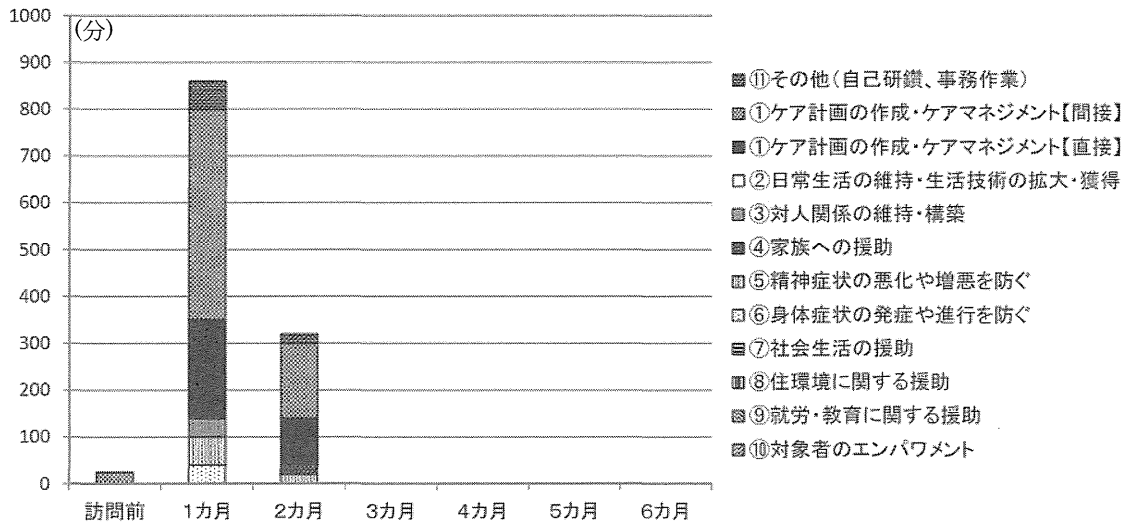
(3) ケース ID: C3

ID: C3 本人の安心できる安全な自宅での対応により意思確認ができ、必要な社会資源につながったケース		
	支援開始時	支援終了時
基本情報		
性別・年齢	男性・50代	
世帯状況・居住形態	母親・自宅	
経済状況・就労状況	家族の収入・無職	
支援期間	54日	
支援終了事由	治療につながっており、障害者自立支援法・介護保険法によるサービス等を活用するなどして、地域生活の継続が可能な状態	
病態像		
類型	受療中断者	
主診断名	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	
副診断名・身体合併症	無・有(下肢静脈瘤)	無
服薬	していない	
GAF	60	65
SBS	14	9
過去18カ月の入院期間	無	
ケアの概要		
総ケア量	1,205分	
直接/間接ケア量	490分/715分	
訪問/電話回数	4回/8回	
会議回数	3回	
支援導入経緯	<p>X-2年1月障害者総合相談支援センターから、こころの健康相談に申込みがあった。母親と二人暮らしで20代から就労せずに自宅にひきこもっているため、母親は自らの亡き後のことを心配して、市障害福祉担当課へ相談にいった。病気の診断書があれば、保険料や年金掛け金の免除等サービスが受給できるとの情報を得たため、受診をさせたいが本人は拒否していた。20年以上前に精神科を受診するが、薬物療法の副作用を理由に通院が途切れた。精神疾患が疑われ引きこもり状態と考えられた。</p> <p>1月下旬 状況把握および受診支援の必要性判断のため、保健師が自宅訪問。母親が訪問について本人へ伝えており、居間で面接に応じた。本人用の離れがあり、現在は母親の老齢年金とパート収入(月10万円弱)で生活していた。税金等が負担で、母親は高齢でいつまで就労できるか不安で、早く本人に社会復帰し、就労してほしいと願っていた。本人は母親が亡くなれば自殺すると仄めかす(多量服用で自殺企図あり)。</p> <p>X-1年3月 母親が市のこころの健康相談に再度相談し、保健師を通じて、アウトリーチ推進事業の紹介を行った。</p>	

① 支援開始からの月数と内容別ケア量

本事例では、初回訪問前に「ケア計画の作成・ケアマネジメント」の支援が実施され、初回訪問から2ヶ月間の支援が継続された。直接ケア、間接ケア共に「ケア計画の作成・ケアマネジメント」のケア量が多く、1カ月目には約660分のケアが提供されていた。

直接ケアの内容をみると、「対人関係の維持・構築」、「精神症状の悪化や増悪を防ぐ」、「身体症状の発症や進行を防ぐ」ケアが実施されていた。



図表Ⅲ-15 C3：支援開始からの月数と内容別ケア量

② 支援開始からの月数と、各職種の関与回数

本事例においては、看護師、精神保健福祉士及び作業療法士が中心にかかわっており、支援2カ月目に精神科医が同行訪問していた。

訪問支援は、支援期間全体で5回であり、3名以上の訪問が1回実施されていた。電話相談は精神保健福祉士によって、支援期間全体で8回実施されていた。

図表Ⅲ-16 C3：訪問支援（回）

職種	月数					
	1	2	3	4	5	6
精神科医		1				
保健師						
看護師	2	1	1			
精神保健福祉士	2	1	1			
作業療法士						
臨床心理士						
薬剤師						
栄養士						
相談支援専門員						
事務職員						
ピアサポーター						
その他						

図表Ⅲ-17 C3：電話相談

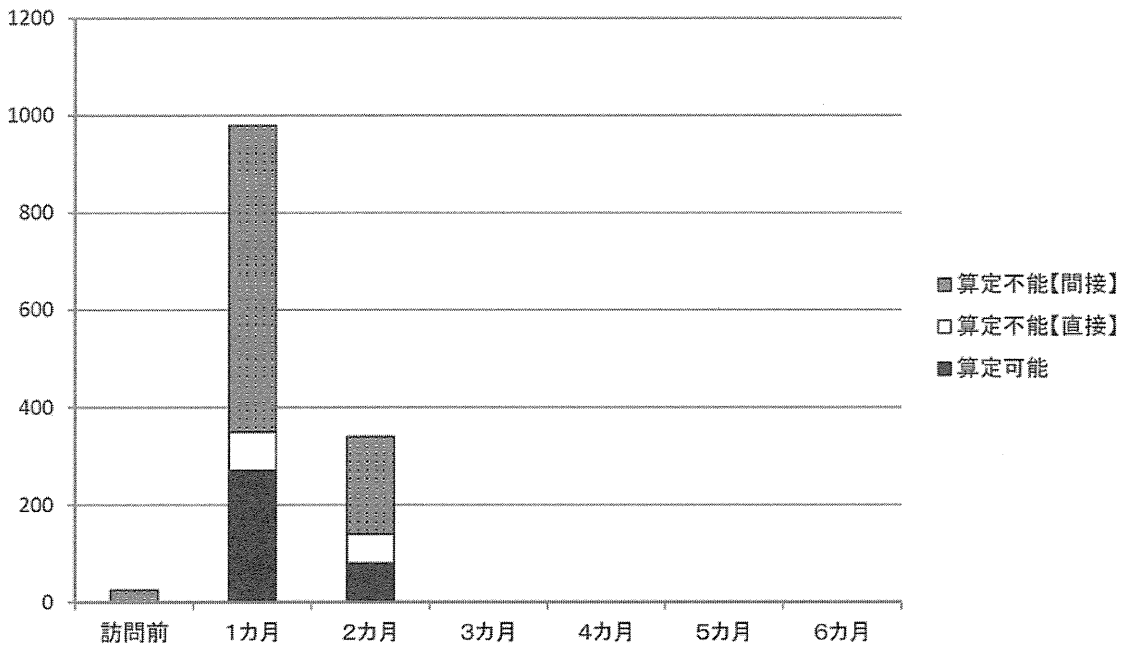
職種	月数					
	1	2	3	4	5	6
精神科医						
保健師						
看護師						
精神保健福祉士		5	3			
作業療法士						
臨床心理士						
薬剤師						
栄養士						
相談支援専門員						
事務職員						
ピアサポーター						
その他						

③ ケース及び支援の詳細

支援経過	
支援開始1カ月	X-1年3月上旬に相談を受け、同月中旬に保健師と同行訪問を実施した。4月にはチームドクターと同行訪問を実施した。 陽性症状を確認し統合失調症と診断され、治療の必要性を本人や母親に説明した。
支援開始2カ月	アウトリーチ支援により受診を促すと、同年5月に精神科病院を母親と受診した。 障害年金の申請手続き支援、次回の外来診察を本人と母親に伝え、治療継続の意思を確認し支援を終了した。

④ 現在の診療報酬制度による算定可否、およびケア時間の推移

この支援対象者に提供されたケア時間を、現在の診療報酬制度によって医療サービスが提供できたと仮定した場合、算定可能なケア時間、算定不能なケアに時間（分）にわけ示す。算定不能のものについては、支援対象者同席で行う「直接ケア」と、支援対象者の同席を得ないで行う「間接ケア」に分け示す。



図表Ⅲ-18 C3：現在の診療報酬制度による算定可否、およびケア時間の推移

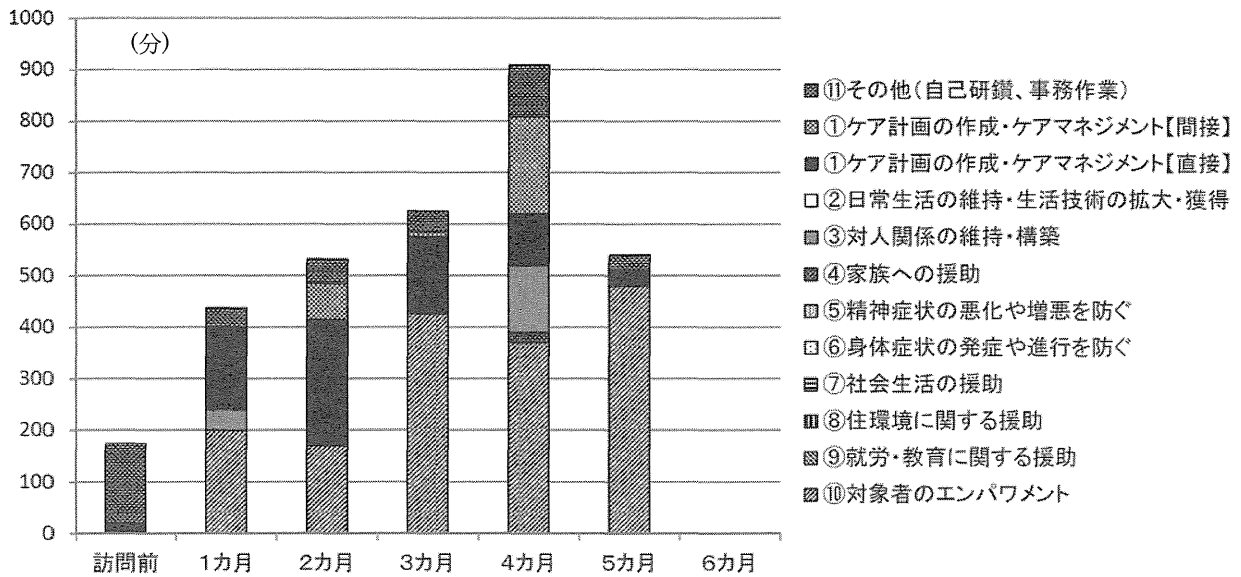
(4) ケース ID: C4

ID: C4 身体障害がある利用者の精神的苦痛を支援し、ピアサポーターとの交流が本人のリカバリーにつながり支援を終了したケース		
	支援開始時	支援終了時
基本情報		
性別・年齢	男性・30代	
世帯状況・居住形態	父親、母親、兄弟姉妹、おい・めい ・自宅	
経済状況・就労状況	家族の収入、障害者年金 ・無職	
支援期間	143日	
支援終了事由	治療につながっており、障害者自立支援法・介護保険法によるサービス等を活用するなどして、地域生活の継続が可能な状態	
病態像		
類型	受療中断者	
主診断名	気分（感情）障害	
副診断名・身体合併症	無・脊椎損傷	無・頸椎損傷による四肢麻痺
服薬	CP換算値(mg):500	家族管理 CP換算(mg):500
GAF	42	65
SBS	16	8
過去18カ月の入院期間		
ケアの概要		
総ケア量	3,217.5分	
直接/間接ケア量	2,540分/677.5分	
訪問/電話回数	37回/18回	
会議回数	17回	
支援導入経緯	X-1年6月、身体的サービスは受給中（重度訪問介護事業所、訪問入浴事業所、訪問看護事業所、マネジメントは地域生活支援センターのPSW、訪問診療クリニック、訪問歯科、レスパイト等）だが、精神面のサービスがなく気持ちが不安定で、母親に八つ当たりしていた。母親から主治医に連絡があり、医師よりチームに相談があった。脊椎損傷にて首から下を動かすことができないが会話はでき意思表示は可能であった。身体ケアサービスでは、本人と話をするというより、母親中心で事務的な話が多いため、自分の話を聴いてほしいという強い訴えから支援導入となった。	

① 支援開始からの月数と内容別ケア量

本事例は、初回訪問前に「ケア計画の作成・ケアマネジメント」及び「その他（自己研鑽、事務作業）」が実施され、初回訪問から5カ月間にわたって支援が継続された。また、支援開始から4カ月目まで徐々にケア量が増加していた。

直接ケアの内容をみると、「対象者のエンパワメント」が最も多く実施され、次に「ケア計画の作成・ケアマネジメント【直接】」が多く実施されていた。



図表Ⅲ-19 C4：支援開始からの月数と内容別ケア量

② 支援開始からの月数と職種別関与回数（訪問支援・電話相談）

本事例では、ピアサポーターが中心にかかわっており、精神保健福祉士が数回関与していた。訪問支援は、月に3～5回であり、基本的には2名で実施されていた。また休日の訪問が1回行われていた。

図表Ⅲ-20 C4：訪問支援（回）

職種	月数					
	1	2	3	4	5	6
精神科医						
保健師						
看護師						
精神保健福祉士	1				1	
作業療法士						
臨床心理士						
薬剤師						
栄養士						
相談支援専門員						
事務職員						
ピアサポーター	3	6	8	9	7	2
その他						

図表Ⅲ-21 C4：電話相談

職種	月数					
	1	2	3	4	5	6
精神科医						
保健師						
看護師						
精神保健福祉士	1		1			
作業療法士						
臨床心理士						
薬剤師						
栄養士						
相談支援専門員						
事務職員						
ピアサポーター	1	1	4	7	2	
その他						